

長泉寺だより

真言宗

薬園山長泉寺

〒700-0807

岡山市北区南方3丁目10番40号

TEL (086)223-7450

FAX (086)221-0302

振込 岡山 01250-6-6418

ホームページ: www.chosenji.net

第 301 号



孫のお守で気づいた。孫と爺さんの関係は「仏さまと人間」のそれとよく似ている。

庭であそぶ孫を見守るとき、どこまでが自由か。どこまでなら安全か。爺さんは考える。

孫を叱るのは両親の仕事。爺婆はぜつたいに叱らない。甘える孫をじつと看守るほかにしない。転んだら自分で立てよ。これを自立といい、自信につなげる。

人間をみまもる仏さまは心の「自由」に生きよ。身の「安全」を察知せよ、と。そこには相互

孫と遊ぶ

ひともし

の信頼関係がある。人間が過まらず、努力をして生きること信じあう。これが仏教だ。

ありがたいことは爺さんは自分が仏さまになった心境である。孫はかわい。
古謡に「遊びせんとや生まれけむ、遊ぶ子どもの声きけば、我が身さえこそ動^{ゆる}がるれ」と。覚えておきたい名歌である。

わが孫二人。かれらが成長し、道はずさないように見守りたい。平和であつてこそ！である。

(光)

霜月大師縁日

春秋祭

11月21日(月)

- 10:00 写経・弘法大師縁日法会
- 10:00 永代供養 楽陽廟 春秋祭
- 10:30 安らぎの塔 塔前祭 戦没者精霊供養・平和祈願

11:00 空海プログラム

解題「山中ニ何ノ楽シミカ有ル (性霊集)」

おせがき行

於：広島

長泉寺杖心会は、八

月二十日、毎年恒例の

おせがき行を開催し、

広島県神石高原町・長

命密寺で施餓鬼供養法

会を奉修しました。

「施餓鬼」とは、特に盂蘭盆

会に修されることの多い追善供

養で、檀信徒各家の精霊の菩提

を祈る法要です。

参加された多くの皆様には、



神石高原町の涼しい気候の中、

塔婆供養と読経を行い、有意義

な時間を過ごせることができた

と喜んでいただけました。

帰りは世羅高原に立ち寄り、

ひまわり祭の鑑賞と梨狩りを行

うなど、楽しく過ごすことがで

きました。

(参加40名)

第8回寺子屋文化講座



岡山の妖怪



木下浩先生

毎回好評をいただいている「長泉寺寺子屋文化講座」の第8回目が今月15日に当山本堂で開講され、「岡山の妖怪」について木下浩先生(民俗学)が講演(参加45名)。

頭が人間で体が牛だと言われる「クダン(件)」や蒜山に伝わる「スイトン」のほか、県内各地に伝わる「コロビ」や「小豆洗い」など、たくさんの妖怪たちをご紹介下さいました。

四国八十八ヶ所逆打遍路

長泉寺杖心会が今年度実施し

ている「逆打遍路」の第5回目

が9月4日に奉修され、伊予の

国(愛媛)石鎚山前神寺から横

峰寺を参拝しました。

参加者皆さん、結願を目指し

て元気にお遍路しております。

(参加33名)



長泉寺本堂修繕奉讃会 ～立ち上げ準備委員会～

来年正月、「長泉寺本堂修繕奉讃会」の立ち上げに向けて、その事業内容の精査に取り組むべく、総代、檀信徒（建設関係事業者）の方々とともに、同会立ち上げ準備委員会を今秋開催しています。

長泉寺本堂は、昭和34年に檀信徒の総力を上げて建築されましたが、この度その老朽化の改善、また耐震化を図るため、総代会に於いて修繕することが決議されました。

工期は、平成30年5月～11月を予定しており、右記工事を行います。

詳細は追ってご連絡させていただきますが、檀信徒皆さまにはどうかお知り置きいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

- 一、瓦の葺き替えと屋根部分の修繕
- 二、耐震補強（基礎・壁面）
- 三、内外陣（本堂内装）の一部改装
- 四、回廊の新調
- 五、車椅子スロープの設置
- 六、建具の新調



第17回

平和の鐘を鳴らそう！

八月十五日、岡山
ユネスコ協会は、
当山境内において
「平和の鐘を鳴らそう！
」を開催。約30
名の方々が集まり、
戦争犠牲者への追悼
と世界平和を祈念し、
当山梵鐘を打ち鳴ら
しました。



記念講演では、岡山空襲展示室（岡山シティミュージアム内）学芸員の猪原千恵さんが「平和話〜岡山空襲に関する資料と証言から〜」という演題で講演。
参加された皆様は、その被害の実態と恐ろしさについて学び、あらためて平和の尊さについて考えました。

人生の尊厳を祭る

—お葬式の今昔—

記 研 光

お葬儀に今昔の感が深い。

むかしは自宅——房内でいとなみ、野辺の送り羽葬列をくみ、墓所に到って「引導」を受けた。つまり「土葬」で、今日は「火葬」がもっぱらであろう。

今日は葬儀業社任せ。かつては町内、講中にゆだねて執り行った。夜通しかかってしつらえるのだから大変。でもお葬儀はほとんどが紙細工でこしらえ、料理も畑にあるもので精進具。経費は安かった。現代の葬儀料が高価だと嘆くのは業者任せだから、とは島田裕巳（宗教学者）氏のご説である。

昭和30年ころから変化してい

く。それまでの野辺送りは「大名行列」のごとく葬列を組んだ。また「練（ねり）供養」の如く僧侶衆も連なった。また棺が御神輿（おみこし）のようにかつがれて墓所についた。

それはどんな人生、境遇に在っても生命の尊厳、人間の讃仰が守られたのだ。つまりホトケさま、カミさまのように尊ばれた。

今日は「家族葬、直葬」などが流行っているが、お葬儀はほんらいハレ（晴）の行事であり、ケ（穢）のものでない。

ちなみにハレとは晴れがましい、表立つ、おおやけで、ケとは公けでない、日常的でない、

よそゆきでないなどをいう。

つまり人の死は「私」だけではなく、「公」のものでもあったのだ。

人は生前、世のため、世人のために尽し、また世話になって有難うという、お礼言の一つもあつて逝くものである。

それをひっそり「私」ごとにしてお葬式とするのは如何か。わが一生はこれで終りになるとして、知人がお祈りの一つでもして別離の告げを交わすものだ。

他（はた）めも、よく頑張った人生だと讃める。お爺さんはこんな時代を生き、お婆さんは家庭を守つて過こしたのですヨ、とメッセージにのこる。会葬の人びとの数多いことで孫たちは故人の面目を認識するのである。

子孫はお葬式の中で自分もがんばろう！という氣をもらい受けるのであろう。

写真（左上）は昭和10年頃の葬送。東兎島の村の門出（かどで）と野辺送り（下）の様子であるが、四門を出で立つのはシャカムニの四門出遊の故事にならっている。女性の丸髷（まるまげ）の正装が印象的である。また葬列は人びとが均等に列を組み、お「輿（みこし）」のように棺がかつがれているのも荘重である。

今一つ大切なことは葬儀の役配——持物の氏名を「読み立て」で呼び出すことだった。都会から久しぶりに帰ってきた人の持物と顔が一致し、あゝ彼が戻つて来たのだとと会葬者に識らさ

れることだ。なつかしい。

「ちなみに「役配」はこれだけあった。

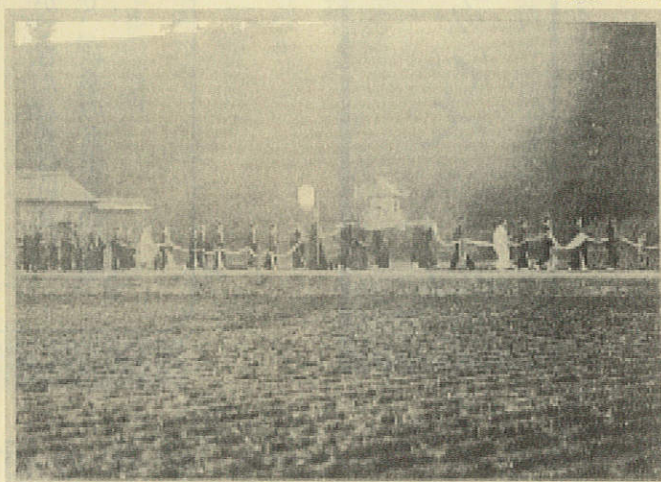
役配

姓名旗／前提灯／四本幡／五色幡／錦幡／腰折提灯／花籠／花降り／生花（以上講中） 小判／紙花／六角塔婆／置布／御膳

門出



野辺の送り



この小稿はお檀家・藤原貞子（津島）さまに秘蔵された写真をお借りした。

釈迦の由縁

かつての葬儀に用意されたもののうち、仏陀（シャカムニ）の葬送にちなんだと考えられることが幾つかある。

それは ①四本幡は

「諸行無常」二云々の唄を書く

②花降りは沙羅双樹の花が散ったこと又は悲しみで眼前が白化した由来 ③小判は六道・三途

の川を渡る六文銭 ④置布は亡者の着ていたもので着物——布

施とされる ⑤六角塔は六道世

界を越ゆる証し ⑦天蓋は悟境

に入ったものに掲ぐ ⑧杖・笠

はへんろの装束で極楽への旅を示す。 ⑨会葬者が忌類あつまった涅槃図に由来 などなど。

釈迦が荼毘（ダビ）——火葬

に伏されことだが、房内作用で不動明王の火生三昧に入るなど、仏教本来に必要なものも多く、今時には省かれる。現代のお葬式を考えなおすべきであろう。

また授戒名は仏弟子になる、あるいは仏家に生まれる大切なことで、これが無しでは済まされない。その位牌は喪主の役配に決まっている。



仁和寺の御影堂落慶

法要に参拝あれ

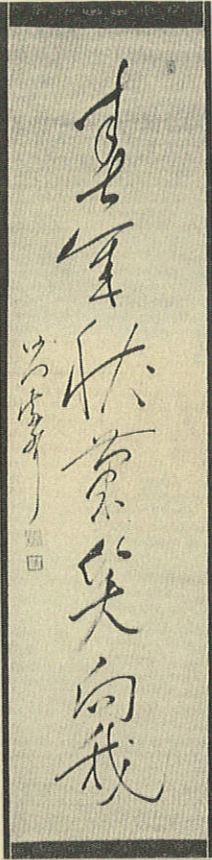
総本山仁和寺は秋五十日間、大法要が営まれる。観音堂の大修理（平成三十年完成予定）、御影堂が営繕できたことで、画期的なことです。

観音堂は真寂法親王の夢に弘法大師が現れ、これ而建てよ、と伝えられた建物。灌頂道場に用いられる。また御影堂は宮中の清涼殿の遺構で大師自ら大日如来に化現された由来がある。

今一つ、開山法皇が「大師諡号（しこう）」——空海、遍照金剛の御名に「弘法大師」になられたが、これは醍醐天皇に従通されて諡（おく）られた法号。仁和寺の三大奇蹟とされる。

仁和寺「平成の大修理」ができた意義は巨きい。檀信徒のご協力のたまもので、秋季の五十日間にぜひお参りしましょう。

春華秋菊笑向我



弘法大師性霊集／雷斧 大僧正筆

今秋の行事案内

▼お彼岸行

9月19、25日 お檀家参り

▼おかやま国際音楽祭

10月10日 表町商店街
当山合唱団 コーロ・ナーガ 出演

▼白須賀観音巡り

10月18日
当山 9:00——池田動物園 10:00——後楽園

▼四国88ヶ所逆打遍路

10月23日 伊予国
11月6日 続き

▼京都（仁和寺）紅葉巡礼の旅

11月16・17日（泊）定員25名

▼ご詠歌舞踊 広島大会

11月9日（泊） 於福山市

▼ひともしトーク&ライブ

11月27日（日）午後2時 @500円
松原徹／光研和尚

▼楽陽廟祭／安らぎの塔前祭

11月21日（月）

平和祈念

お寺文化祭（華・茶・書道）